せん。子どもの心の中には伸ばす芽と摘みとる芽があります。その中でも摘みとる芽の第一はこの「わがまま」です。

幼児のしつけの要点は次のとおりです。

一　しつけきびし過ぎれば⇩　うそつきとなり
二　しつけ不足は⇩　わがままとなり
三　しつけ怠れば⇩　非行の芽となり
四　しつけよければ⇩　よい子が育つ

子どものいろいろな問題は、子どもには原因がなく、育てる側にあることを、もう一度反省したいと思います。

話しじょうずより聞きじょうず

「母乳がいらなくなったら、会話を考えよ」と言われています。

ある面では、母乳とともに話しあいが大切であります。「うまうま」「ママ」が言えるまでには、母親が何万回話しかけ、呼びかけたかわかりません。ところが、子どもが成長してくると、母親は、あのような気長さと根気よさをしだいに忘れて、先を急ぎすぎるようになりがちです。そして、物を多く教え込もうとあせるようになるものです。子どもが少し話をするようになったら、聞きじょうずになることが必要です。まとめて話すことができなく、断片的であったり、「あのう、あのう」と言ったりしますが、せかさずに聞いてやることが大切であります。